



みんなでつくろう！ようかいちのまち

八日市
コミセン HP



八日市まち協だより

第76号
令和7年8月発行

聖徳まつり 2025



庄巻のドローンショー

金屋の民泊 「ゲストハウスねば」 北浦耀司さん ～八日市に来た人に、八日市に長く居てもらうために～

金屋2丁目の一角に昨年、長屋をリノベーションした民泊があります。なぜこの地に？どんな人が利用されるの？と、地元民としては疑問がいっぱい。そこで運営されている北浦さんにお話を伺いました。

北浦さんは地域おこし協力隊員として八日市に来られ、「八日市まち協だより」62号（令和4年3月発行）「古い建物をリノベーション」の記事でも登場されています。

八日市は、徒歩圏内に様々なものがそろっており、都会に比べて生活費も安く、とても住みやすい地だと北浦さんはおっしゃいます。都会で商売をしようとしても家賃が高く、なかなか勝負ができない。その点八日市なら勝負ができる。そう考える若い人たちが北浦さんのまわりには何人もいらっしゃるそうです。そんな知り合いや、知り合いの知り合いが八日市に来たときに、安価で泊まれるゲストハウスを作ろう、そうすれば長く八日市に滞在してもらえ、魅力も伝えられると民泊を始められたそうです。「八日市ディグ（掘り起こし）MAP」を作って、泊まった方に近辺の案内もされています。

民泊の営業は年に180日（月のほぼ半分）までと定められています。現在利用者は月平均で13～14人といったところ。利用者の多くは知人やその知人ですが、それ以外にもネットを見て来られる人もいます。

「若い人向けの民泊をやっています。若い人を八日市に呼んで、この町を案内して、移住者はもちろん、この町に関心を持ってもらえる人を増やしたい。地域の方には、温かい目で見守ってもらえると嬉しい。」と北浦さんはおっしゃっていました。

荒川 貴美代



新感覚の宿泊施設誕生

ほんまちホテル 栗田豊一さん・典代さん ～ 荒勝商店の看板の下で～

ほんまち商店街の中心に 2024 年に誕生した宿泊施設。その店主は、元市役所職員のご夫婦です。飲食店や銭湯、ラウンジが並ぶこの八日市に、「宿泊施設が加われば、商店街の魅力をもっとゆっくり楽しんでもらえるはず」——そんな想いからホテルの開業を決意されました。



かつて紳士服専門店「DAN arakatu」として親しまれた建物を活用し、今もその看板はそのままだ。懐かしい雰囲気と新しい取り組みが、ここで心地よく共存しています。

宿泊客は全国から訪れ、ご夫婦やファミリー、外国からのお客様も少なくありません。一方で、1階はカフェとして地域の方にも開かれた憩いの場。近隣のお店のスイーツを持ち込める気軽さも好評で、ドリンクを片手にのんびりと過ごす時間が流れています。



カフェ内には植物ショップ「Ichirensou」も併設されており、植物を育てる楽しさに寄り添いながら、緑のある暮らしをそっと後押ししてくれます。

店主ご夫婦は地元のお店と協力しながら、商店街でイベントも開催中。昭和の面影が残る通りに、少しずつ人の流れが戻ってきています。学生さんが勉強に訪れる姿も見られるようになり、地域にゆるやかなつながりが育まれています。



羽川アナと一緒に

「気軽に立ち寄ってほしい」——そんなメッセージを込めて、ホテルは地域の人にもやさしく開かれています。店主の温かな人柄に癒されながら、今のほんまち商店街の魅力を、ぜひ再発見しませんか？

中村 敦美



ほんまちホテル
東近江市八日市本町13-6

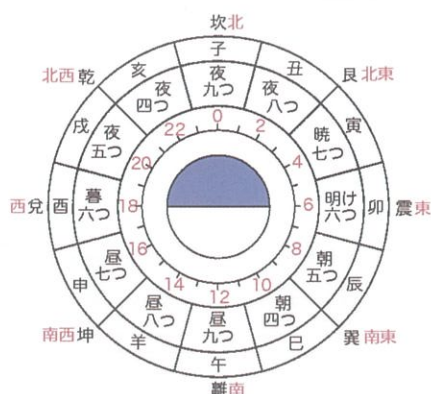


←公式 HP はこちら



明治5年、新政府は旧暦から新暦と呼ばれる世界共通の太陽暦へ改暦を公布、翌年から使用が開始された。この改暦に連動して、時刻制度も日本独自の不定時法から世界共通、かつ現行でもある定時法へ変更された。

日本独自で江戸期の不定時法とは、日の出のおよそ30分前が「明け六つ」で昼の始まりとし、日の入りのおよそ30分後を「暮れ六つ」で夜の始まりとした。昼間を六等分して昼の一刻(とき)とし、夜間を六等分して、夜の一刻とした。この不定時法を支えた櫓(やぐら)時計文字盤の外周は干支が午後11時から午前1時の子(ね)の位置から右回りに、一刻の間隔で丑、寅、卯と干支が並ぶ。内周は奇妙な数列で、午前0時の位置が



あれやこれや

其の三十二

明け六つ(あけむつ)の巻

「九つ」で右回り、一刻毎に八つ、七つと数が減り、四つまで来ると再び九つに戻るという奇妙なものであった。

時刻に関する江戸期の呼称が今も残る。良く出会うものを紹介します。

- ・お江戸日本橋、七つ発ち→六つが6時だから、七つは2時間前の4時の出発
- ・草木も眠る丑三つ→丑は1時～3時、それを4分した3番目で2時～2時半

日の出、日の入りの時刻は季節によって変化する。そのため、昼の長さも変化する。昼が一番短い冬至(約9時間)と昼が一番長い夏至(約14時間)を比較すると約5時間余りも差がある。昼の長さを六等分したものを一刻とする江戸期の不定時法では一刻の長さは、およそ2時間であり、季節や昼夜によって変化する。それを自動的に修正するために、櫓時計の棒テンポの錘の位置を調整したり、干支が描かれた外周文字盤の間隔を変えたりして対応した。

時間の単位もおよその世界で、「一刻」のみで、それ以下は「半刻(×0.5)およそ1時間」、四半刻(×0.25)およそ30分」で「分」「秒」の単位は無かった。

森野 吉雄

地域担当職員紹介

地域と市役所をむすぶ職員のみなさんです

- 🌸 塚本 明さん 🌸 羽泉亮太さん 🌸 内田 葵さん NEW 🌸 清水裕貴さん
 資産税課 総務課 まちづくり協働課 障害福祉課

片言隻句

今年も猛暑が続いていますが、皆さま、体調はいかがででしょうか？60過ぎの自分もかなり堪えておりますが、こまめな水分補給、エアコンの使用で熱中症にならないよう気をつけましょう！

子供の頃の夏は、エアコンなど無くて扇風機だけで過ごしていたのが今は昔のお話ですね。

自分は島根県出身で、海辺で育ったこともあり、子供の頃は夏が大好きで、毎日のように海で遊んでいました。浅瀬にいる、はまぐり、カニ、カレイや舌平目の稚魚など獲って焚火で焼いて食べたりにして、ほんとに美味しかった思い出があります。

東近江近辺のスーパーの魚売り場をのぞくと、なんと島根県産の魚がけっこう並んでいます。

特に石見地方のエテカレイの一夜干しは上品でたんぱくな味で、ご飯やお酒のお供にぴったりです。調べてみると、浜田漁港のカレイの一夜干しは石見地方の特産品であり、生産量全国一でした。

是非、この夏は辛いカレイだけでなく、カレイの一夜干しを食べ

て乗り切りましょう！



山本 満

